

## Geographical Review of Japan Series B 執筆要領 (2019年10月)

### 1. 原稿の種類

- 1) 英文原稿の種類は、論説(Original Article)、総説 (Review Article)、短報 (Research Note)、報告 (Progress Report)、翻訳論文 (Translated Article) および書評(Book Review) とする。
- 2) 論説は、その長短・形式にかかわらず、オリジナルな調査研究の成果とする。
- 3) 総説は、既存の研究成果の検討、研究史、研究動向、将来への展望などとする。
- 4) 短報は、オリジナルな調査研究に基づく新知見の速報や、新しい視点や手法の提案などとする。
- 5) 報告は、自らの研究の進展や課題を論じ、国際的議論に寄与するものとする。
- 6) 翻訳論文は、地理学評論に掲載された論文を英文翻訳したものとする。
- 7) 書評は、文献の批評・紹介とする。
- 8) 論説・総説・短報・報告・翻訳論文は、複数の読者による読後感に基づいて、編集委員会が掲載の可否を決定する。編集委員が読者を兼ねることもある。読後感の手順については別に定める。
- 9) 書評は、編集委員会が掲載の可否を決定する。

### 2. 原稿の作成と提出

#### 2.1. 原稿の作成

- 1) 本文などは A4 判白紙片面を縦に用いて天地左右に余白と行間の余裕を十分に取り、20～25 行程度で作成する。
- 2) 図表などを含めた刷上がりページ数 (1 ページ当たりの印刷字数は最大で約 4500 字) は、論説・総説・翻訳論文は 24 ページ (約 12,000 語) 以内、短報・報告は 18 ページ (約 9,000 語) 以内、書評は 2 ページ (約 1,300 語) 以内とする。
- 3) 論説・総説・短報・報告・翻訳論文には摘要およびキーワードを付ける。
- 4) 論説・総説・短報・報告・翻訳論文の原稿は、表題・目次、摘要、本文、謝辞、注、文献、表、図、図キャプションの順にまとめ、摘要から文献までは通しページを付ける。
- 5) 本文の原稿の右の余白に図表の位置を示す。
- 6) この他、必要に応じて付録 (Supplementary files) をつけることができるが、容量については編集委員会の指示に従うこと。

#### 2.2. 原稿の提出

- 1) 原稿は、原稿送付状 (名簿およびホームページに掲載) を添えて、原則として電子媒体で提出する。原稿の電子ファイル (原則として PDF ファイル) は編集委員会宛に電子メールで送付する。本文、図表・写真などは、一つの PDF ファイルにまとめて提出する。
- 2) ファイルサイズには制限を設けないが、現行の標準的なパーソナルコンピュータで速やかに印刷可能な程度のサイズにする。大容量ファイルとなる場合は、事前に編集委員会に相談する。
- 3) ファイルが大きく電子メールでの提出に支障がある場合は、ファイルを圧縮した上でファイル受け渡しサービス (たとえば、「宅ふぁいる便」など) やオンラインストレージ (たとえば、「OneDrive」など) を利用してもよい。当面は、ファイルを磁気メディア (CD-ROM または DVD) に保存して、郵送したものも受け付ける。

#### 2.3. 原稿送付状

- 1) 日本人などの著者名のローマ字表記では、OKUNO Takashi のように姓を先とし、姓はすべて大文字で記す。
- 2) 著者が大学院生の場合の所属は、Graduate student, ~Univ. のように記す。

- 3) 著者が大学院所属の教員の場合は、大学院生と紛らわしくならないように、所属はGraduate Schoolを避けて、Department of Geography（またはFaculty of ～, School of～）、～Univ.のように、実質的かつ簡略に記す。

#### 2.4. 原稿提出先

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル内  
公益社団法人 日本地理学会 Geographical Review of Japan Series B 編集専門委員会  
電話 03-3815-1912

#### 3. 英文表記

- 1) 英文表記（綴りなど）は原則としてアメリカ式とする。ただし、著者の経歴や対象地域などによってはイギリス式でもよい。
- 2) 原稿の段階では行末で単語を分割しない。また、行末を右揃えにする必要はない。
- 3) e. g., i. e., etc., et al.などはイタリックにはしない。
- 4) 日本語・中国語・ロシア語などはローマ字（ラテン文字）で表記する。日本語のローマ字表記はヘボン式とし、特別な事情がない限り長音記号は用いない。

4. **表題** ヘッドライン方式（前置詞などを除いて各語大文字+小文字）、ボールド体指定、左詰めとする。

#### 5. 摘要・キーワード

- 1) 摘要は250語以内、左詰め追込みとし、改行しない。
- 2) キーワードは5個程度、左詰め追込みとし、固有名詞などを除いてすべて小文字とする。

#### 6. 本文

- 1) 章タイトルは2行取りとし、表題に準ずる。
- 2) 節タイトルは前節と1行あけて、センテンス方式（固有名詞などを除いて最初の1文字のみ大文字）、ボールド体指定、左詰めとする。
- 3) パラグラフの最初は2字下げとする。節より下のレベルの見出しはなるべく避けるが、必要な場合にはパラグラフの冒頭にセンテンス方式、ボールド体指定で記し、文章を追込みで続ける。
- 4) 注の表示には括弧を付けずに数字のみを当該箇所の単語の末尾またはコンマ・ピリオドの後（イギリス式では前）の右肩に記す。

7. **謝辞** 見出しは表題に準ずる。文章の最初は2字下げとし、改行しない。

8. **注** 本文（謝辞）の後にまとめて記す。見出しは表題に準ずる。注番号には括弧を付けない。文章の頭を揃える。

#### 9. 文献

- 1) 文献表では著者の姓のアルファベット順に並べ、和文原稿執筆要領の欧語文献の例に準拠して表記する。
- 2) 英語以外の文献名・雑誌名は、検索可能な公式英訳がある場合には英訳のみとする。公式英訳がない場合には原語（たとえば日本語のローマ字表記）のみとするが、英訳を原語の後に括弧書きで付してもよい。
- 3) 紛らわしい雑誌名には、発行地、発行機関、または原語タイトルなどを括弧書きで付す。
- 4) 英語以外の文献には、たとえば日本語のみの文献は（J）、英文要旨付き日本語文献は（JE）のように、末尾に略号を付す。
- 5) 本文などでの文献引用は、和文原稿執筆要領に準拠する。

#### 10. 図・表

- 1) Figure 1., Table 1. のように通し番号を付ける。

- 2) 図はモノクロ／カラーとも掲載を可とする。
- 3) 表の罫線は横罫線のみとする。
- 4) このほか、図・表の作成については、和文原稿執筆要領に準拠する。

#### 11. その他

- 1) 翻訳論文 (Translated Article) の取り扱いは以下の通りとする。
  - a) タイトルは、元の論文の英文表記の後に「(English Translation)」を加える。
  - b) 翻訳にあたり、原則としてデータや結論に変更を加えない。
  - c) 英文論文としての説明性を高めるための加筆や文献追加は可能とする。
  - d) 変更点については文末に補遺として明記する。
  - e) 直訳は避け、英文として論理性を高める。
- 2) 報告 (Progress Report) の取り扱いは以下の通りとする。
  - a) データのオリジナリティや総合的なレビューは求めない。
  - b) 自らの研究の進展や課題を考察することによる国際的発信力の向上を評価する。